

## 【テーマ2】 府立高校の教育力を向上させます

### めざす方向

- ◆グローバル社会で活躍できる人材の育成やセーフティネットの整備など社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実をすすめます。
- ◆キャリア教育や不登校・中途退学への対応など生徒一人ひとりの自立を支える教育を充実します。
- ◆計画的な施設整備やICT環境の充実により、府立高校の教育環境の整備をすすめます。
- ◆府立高校の新たな特色に応じて、中学生にとってより一層公平な入学者選抜制度とします。
- ◆各校の教育内容の充実を図るとともに、将来の生徒数等を勘案した効果的かつ効率的な学校配置をすすめます。

### 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実

#### <今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール等）>

#### ■英語コミュニケーション能力の育成

##### \* 骨太の英語力養成事業



- ・府立高校生の英語4技能（聞く・話す・読む・書く）の引上げを行うため、府立高校17校でSET（Super English Teacher）によるTOEFL iBTを扱った授業を導入するとともに、TOEFL講座の実施や生徒の海外研修派遣を実施します。



##### \* 英語教育推進事業

- ・在籍校によらず、意欲ある生徒に対して「聞く・話す」能力の鍛錬を行い、英語能力を上げるため、府立・私立の高校生を対象に、特訓クラスの設置や生徒の海外研修支援を実施します。



は、公私双方を対象とする取組み

#### <何をどのような状態にするか（目標）>

#### ◇成果指標（アウトカム）

- \* SET配置校におけるTOEFL iBT(\*2)オンライン受験(※)で以下のスコアをめざします。
  - 1年生：40点以上が受講者の6%以上
  - 2年生：40～59点が受講者の35～47%、60点以上が受講者の6%以上
  - 3年生：60点以上が受講者の52%以上、80点以上が受講者の6%以上
- ※iBTオンライン練習テストを活用してスコアを把握（3年生については、平成27年にSETを配置した学校のみ）
- \* 特訓クラス（Advanced Class）受講者の英検2級、TOEFL iBT40、IELTS(\*3)5.0以上相当の英語力を有する生徒の数を増やします。  
（参考）平成28年度 50名
- \* 府立高校で海外研修新規実施校を増やします。  
（参考）平成28年度 2校
- \* 教員研修参加者が全員英検準1級（相当）以上を取得します。  
（参考）平成28年度 参加者の86%が取得

#### <進捗状況（H30.3月末時点）>

- 英語コミュニケーション能力の育成
- \* 骨太の英語力養成事業
  - ・SET配置校におけるTOEFL iBTオンライン受験結果<H27配置校>
    - 1年生:40点以上が受講者の61%
    - 2年生:40～59点が受講者の52%、60点以上が32%
    - 3年生:60点以上が受講者の15%、80点以上が6%
  - <H28配置校>
    - 1年生:40点以上が受講者の38%
    - 2年生:40～59点が受講者の59%、60点以上が13%
  - ・TOEFL iBTのオンラインテストに挑戦して効果測定を行う「iBT チャレンジ支援」を実施しました。  
参加校：府立高校17校、私立高校4校
  - ・SETによる公開授業及びSET研修兼連絡会を実施。
  - ・教員へのiBT研修を年5回実施した。
  - ・生徒の海外研修派遣を17校で実施した。
- \* 英語教育推進事業
  - ・特訓クラス（Advanced Class）受講者の英検2級（相当）の英語力を有する生徒の数 60名
  - ・海外研修新規実施校  
平成29年度 3校
  - ・教員研修（英語教育推進リーダー養成研修）研修参加者のうち英検準1級（相当）以上の取得率 90%

■ネイティブ英語教員の配置に向けた取組み

・グローバル化に対応した英語教育に取り組んでいくため、英語圏の大学や大学院を卒業した英語ネイティブの方を国籍や教員免許の有無を問わず、教員として採用し、平成30年度から府立高校に配置します。（教員免許を持たない方は特別免許を発行）

■理数教育の充実

\*大阪サイエンスデイ 

・スーパースائنシススクール指定校を中心に、府内の国公私立高校の生徒が集い、理科・数学分野等の研究成果や海外研修の成果を発表します。



は、公私双方を対象とする取組み

■グローバルリーダーズハイスクール(\*4)の充実

\*グローバルリーダーズハイスクール支援事業

・10校による合同発表会や海外研修への支援を行います。また、平成26年度からの3年間及び平成28年度の各校の取組みや実績について、外部有識者による評価を行います。

◇活動指標（アウトプット）

\*平成30年度にネイティブ英語教員として10名程度採用します。

◇活動指標（アウトプット）

\*科学の甲子園大阪大会への参加校数、大阪数学コンテストへの受験者数を増やします。  
 （参考）平成28年度 科学の甲子園大阪大会 22校  
 大阪数学コンテスト 131名

◇成果指標（アウトカム）

\*学校教育自己診断(\*5)における生徒の学校生活満足度を向上させます。  
 （参考）平成28年度 86.1%  
 \*現役での国公立大学進学率を向上させます。  
 （参考）平成28年度 38.2%  
 [平成29年度実績は5月頃確定]

○ネイティブ英語教員の配置に向けた取組み  
 ・ネイティブ英語教員採用選考を実施。  
 応募者数：17名、最終合格者数：3名

○理数教育の充実

・「第10回大阪サイエンスデイ（生徒研究発表会、第7回科学の甲子園大阪府大会）」を開催した。  
 ・生徒研究発表会については、サイエンススクール・ネットワーク連携校（大阪のSSH校、経験校・希望校）18校（府立14校、私立1校、国立1校、市立2校）に、府内10校（府立7校、私立3校）、台湾の国立中科実験高級中学を加えた29校が参加した。  
 （参考）平成28年度：26校  
 ・第7回科学の甲子園大阪府大会を実施した。  
 参加校：20校（府立11校、私立6校、市立3校）  
 ・京都・大阪数学コンテストを実施し、152名が受験した。

○グローバルリーダーズハイスクールの充実

・5名の外部有識者からなる評価審議会を開催し、各校の取組みと実績について、平成28年度の評価ならびに平成26年度から平成28年度までの3年間の総合評価を実施した。  
 ・7月に海外研修を行い、2月に合同発表会を実施した。  
 \*学校教育自己診断における生徒の学校生活満足度  
 平成29年度 87.1%

■ 工科高校の充実

- ・工科高校・農業高校を対象に企業や大学等との連携により、技術・技能研修の推進を図るための支援を行います。
- ・生徒・保護者対象の進路説明会などにおいて、平成28年度に工科高校魅力化推進PTが作成した工科高校PR映像を掲載したホームページなどを活用し、引き続き工科高校の魅力を発信します。

■ 生徒の「学び直し」等を支援する新たな学校の設置

\* エンパワメントスクール(\*6)の設置

- ・エンパワメントスクールにおいて、「学び直し」や「正解が1つでない問題を考える授業」、「体験型の授業」を重視したカリキュラムを編成し、教育内容の充実を図るとともに、教育効果を一層高めるため無線LAN環境や実習室等を整備します。また、生徒の進路実現を支援するキャリア教育コーディネーターや生活面での課題を抱える生徒をサポートするスクールソーシャルワーカー（SSW）を活用します。

■ 中高一貫校の運営

\* 併設型中高一貫校運営事業

- ・府立富田林中学校・高等学校において、6年間を通した一貫性や系統性を持たせた指導を行い、「グローバルな視野とコミュニケーション力」、「論理的思考力と課題発見・解決能力」、「社会貢献意識と地域愛」の3つの資質を育成する教育を実施します。

\*平成30年度選抜において、全ての府立工科高校9校で募集人員の充足をめざします。

(参考) 平成29年度選抜

4校で募集人員を充足せず

◇活動指標（アウトプット）

\*平成25年度に策定した再編整備計画に沿って、平成30年度は2校を開校します。

(参考) 平成27年度開校 3校

平成28年度開校 2校

平成29年度開校 1校

\*左記の教育目標の達成に向けた取組みを行います。

(主な取組み)

・中学校初期段階からの英語のリスニング力強化

・地域をフィールドとした探究学習を実施し、その成果を発表する。

○工科高校の充実

- ・平成28年度に設けた「企業等連携による実践的技能力育成事業」を活用し、企業で活躍する技術者や、大学から高度な技術や技能の支援を受けた。
- ・府内中学校で行われる進路説明会等で、中学生や保護者に対して工科高校の魅力を伝える活動を実施した。
- \*平成30年度選抜 5校で募集人員を充足せず

○生徒の「学び直し」等を支援する新たな学校の設置

- ・平成29年度までに開校したエンパワメントスクール6校については、1年次生を対象に実施している5教科の「学び直し授業」や「正解が1つでない問題を考える授業」の充実を図るため、授業力向上を目的とした連絡会や研修会を定期的に実施した。また、キャリア教育コーディネーター（CC）やSSWの効果的な活用を図るため、CC、SSWを対象とした定期的な連絡会を実施した。
- ・平成30年度に開校する淀川清流高校と和泉総合高校については、担当教員を対象とした連絡会や研修会を実施し、カリキュラムの策定や教材づくりを行った。また、無線LAN環境や実習室等を整備した。

平成27年度開校 3校

平成28年度開校 2校

平成29年度開校 1校

平成30年度開校予定 2校

○中高一貫校の運営

・「モーニングイングリッシュタイム」

毎朝、授業前の10分間に英語リスニング学習を実施した。




・「イングリッシュキャンプ」

府立青少年海洋センターにて、オールイングリッシュで1泊2日の宿泊学習を実施した。

・「富中サイエンス」

大学教員等による自然科学分野の専門講座を計4回実施した。地域探検地域貢献学習を実施後、地域フォーラムにて成果を発表した。

生徒の自立を支える教育の充実

＜今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール）＞	＜何をどのような状態にするか（目標）＞	＜進捗状況（H30.3月末時点）＞
<p><b>■ キャリア教育の推進</b> </p> <p>* 職業教育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門学校のノウハウを活用し、職業教育テキストを作成して授業等で使用することにより、府立・私立高校生の職業観の育成を図ります。</li> <li>・キャリア教育支援体制整備事業により構築した校内体制及び就職支援に関するノウハウを有効活用します。</li> </ul> <p><b>■ 中退防止対策の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中退率の高い37校に中退防止コーディネーター(*7)を配置し、中高連携の推進や校内組織体制づくりをすすめます。</li> <li>・全府立高校が参加する中退防止フォーラムを開催し、中退防止に効果をあげている学校の取組みを発信します。</li> </ul> <p>* 様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な課題を抱える生徒が多い府立高校（定時制課程）4校にスクールソーシャルワーカー(*8)を配置し、学校への定着を図ります。</li> </ul> <p>* 課題早期発見フォローアップ事業 </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民間支援団体と連携して高校に居場所を設け、課題を抱える生徒を早期発見するとともに、学校が必要とする外部人材を活用し、関係機関につなぐことにより、生徒のフォローアップを行います。</li> </ul> <p> は、公私双方を対象とする取組み</p> <p><b>■ 長期入院している生徒等への学習支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 長期入院生徒学習支援事業</li> <li>・病気やけがでの入院により長期間登校できない府立高校生に対して、在籍校の教員が病院へ出向き状況に応じた授業を行います。</li> <li>* 在宅等で学習する生徒へのICTを活用した支援</li> <li>・ICTを活用して、在宅等で学校との双方向の授業に参加できる仕組みについて運用を継続し、学校を支援します。</li> </ul>	<p>◇成果指標（アウトカム）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 就職内定率の向上を図ります。 （参考）平成29年3月末就職内定率（府立高校全全日制・定時制）95.1% 〔平成30年度3月末の就職内定率は5月頃公表予定〕</li> </ul> <p>* 府立高校（全日時の課程）の中退率を1.5%以下にすることをめざします。 （参考）平成28年度 1.3% 過去5年間の平均 1.6% 過去5年間のうちの最小値 1.3% 〔平成29年度結果は10月頃公表予定〕</p> <p>* 平成31年度に対象校4校の中退率を本事業開始時の全国公立高校定時制課程の中退率の平均値11.4%以下にすることをめざします。</p> <p>* 対象校での、不登校生徒数10%の減少と学校満足度の上昇（学校教育自己診断等）をめざします。 〔不登校生徒数、学校満足度の実績は5月確定予定〕</p> <p>◇活動指標（アウトプット）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 病気・ケガ等により、やむを得ず長期間登校できないが、就学意思を強く持ち、学習意欲がある生徒に状況に応じた授業などが迅速に実施できるようにします。</li> </ul>	<p>○キャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 職業教育推進事業</li> <li>・職業教育テキストの作成【テーマ10】再掲</li> <li>・府立学校を対象に進路指導研修を開催し、これまで構築してきた校内体制や就職支援に関するノウハウに関する事例報告を行った。</li> </ul> <p>○中退防止対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中退防止コーディネーターを配置している34校で、校内組織や指導体制に関する数値目標を設定した。年度末の達成状況を確認予定。</li> </ul> <p>* 様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールソーシャルワーカーの連絡会を2回実施した。</li> <li>・10月よりスーパーバイザーを月1～2回派遣した。</li> </ul> <p>* 課題早期発見フォローアップ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な生徒支援を図るため、教育庁、各校担当教員、NPO 担当者の研修会、及び、連絡会（2回）を実施した。成果発表会を実施した。</li> <li>・NPO が開設した居場所に、1日平均15名の生徒が訪問した。登校の動機づけとなり、不登校が解消された事例もあった。</li> </ul> <p>○長期入院している生徒等への学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 長期入院生徒学習支援事業</li> <li>・対象生徒（12校13人）に対して、在籍校教員が病院へ出向いて状況に応じた授業を実施した。</li> <li>* 在宅等で学習する生徒へのICTを活用した支援</li> <li>・在宅等で学習する生徒へのICTを活用した支援として、2校で遠隔授業（学校と自宅もしくは病院を接続）を実施した。</li> </ul>



**学習環境の整備**

＜今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール等）＞	＜何をどのような状態にするか（目標）＞	＜進捗状況（H30.3月末時点）＞
<p>■ <b>ICT環境の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>＊ 学校情報ネットワーク再構築事業</li> <li>・ネットワーク構成の見直しを含めた再構築を行い、ICTを活用した学習環境の整備を進めます。</li> </ul>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>＊ パソコンなどICT学習環境整備のために必要な機器の整備を進めます。</li> </ul>	<p>○ICT環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度内に更新予定であった ICT 機器（LAN 教室・第2LAN 教室・図書システム・学情パソコン等）の更新をすべて実施した。</li> <li>・学情再構築に伴うデータ移行作業を実施した。</li> </ul>

**公平でわかりやすい入学者選抜の実施**

＜今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール）＞	＜何をどのような状態にするか（目標）＞	＜進捗状況（H30.3月末時点）＞
<p>■ <b>入学者選抜制度の改善と調査書の絶対評価導入への対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな選抜制度における調査書の評定について公平性を担保するため、チャレンジテストの結果を活用します。</li> <li>・今年度実施の平成30年度選抜では、第1学年～第3学年の評定を活用します。</li> <li>・各中学校の学習評価の妥当性・信頼性を高めるため、府内全市町村教育委員会とともに研究協議を行い、市町村や各校の評価活動における組織的な検証改善の取組みを支援します。</li> <li>・インフルエンザ罹患者等に対する受験機会の確保に向け、6月を目途に追検査の実施について検討します。</li> </ul>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>＊ 調査書評定の公平性を担保し、平成28年度選抜からの新たな制度での入学者選抜を実施します。（府内統一ルールのもと、中学校の評価活動が適正に行われたか検証を行います。）</li> </ul>	<p>○入学者選抜制度の改善と調査書の絶対評価導入への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度入学者選抜において、絶対評価の府内統一ルールの実施状況について、市町村教育委員会を通じて調査を行ったところ、94.2%の中学校において、評定を変更することなく、府内統一ルールで定めた各中学校の「評定平均の範囲」に収まったことがわかった。</li> <li>・平成30年度選抜については、平成29年3月に方針を定め、4月に中学校3年生の府全体の調査書評定の平均を3.36と決定した。</li> <li>・調査書作成ソフトは、新たに1学年の評定を記載する機能を追加する他、成績一覧表を読み込むのに要する時間を短縮できるよう改良した。</li> <li>・追検査は一般選抜の欠席者のうち、学校保健安全法施行規則に規定する感染症に罹患した者を対象に国語・数学・英語の3教科で行い、合格者は原則として募集人員と別に決定し、合格者発表は一般選抜の合格者発表と同日に行うことを決定し、市町村教育委員会や中学校等を対象にした説明会を行い、周知を図った。</li> <li>また、10月に定めた入学者選抜実施要項に新たに「追検査」の項を設け、出願の時間及び場所、検査の実施場所を定め、市町村教育委員会、高等学校及び中学校等を対象に説明会を行った。</li> <li>さらに、1月に定めた入学者選抜実施細目の実施に係る詳細を示し、高等学校を対象に説明会を行ったうえで、3月に実施した。</li> </ul>

**就学機会の確保と学校を選択できる環境づくり**

＜今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール）＞	＜何をどのような状態にするか（目標）＞	＜進捗状況（H30.3月末時点）＞
<p><b>■奨学給付金制度の実施</b>                      * 公立高校生奨学給付金事業                      ・国公立高校に在籍する低所得世帯の生徒に対して、学校徴収金をはじめ、就学のために必要な経費に充てるための給付金を支給します。</p> <p><b>■進学フェア</b>                      * 広報強化推進事業                      ・進学フェアについて、来場者が必要な情報を得られ、満足度が高いものとなるように、抜本的な見直しを図ります。</p>	<p>◇成果指標（アウトカム）                      * 低所得者世帯の授業料以外の教育費負担を軽減します。</p> <p>◇活動指標（アウトプット）                      * 使用施設を変更し(インテックス大阪2号館)、ブースガイダンスの効率化を図り、来場者対象のアンケート調査において「満足」と回答する割合を90%以上にするをめざします。                      (参考) 平成28年度 90%</p>	<p>○奨学給付金制度の実施                      ・4月に国基準の改定（非課税世帯の1人目の支給単価引上げなど）を踏まえて支給要綱を改正した。                      ・7月末まで 受給申請書の受付                      ・12月上旬 給付金決定通知                      ・12月中旬 給付金の支給</p> <p>○進学フェア                      ・7月23日実施（会場：インテックス大阪2号館）                      ・来場者数：約17,000人                      ・ブースガイダンスを効率化した。                      ・来場者アンケート調査において「満足」と回答した割合                      96.3%</p>

**活力ある学校づくりをめざした府立高校の再編整備**

＜今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール等）＞	＜何をどのような状態にするか（目標）＞	＜進捗状況（H30.3月末時点）＞
<p><b>■府立高校の再編整備の計画的な推進</b>                      * 府立高等学校再編整備事業                      ・平成30年度の開校・改編に向け、施設・設備の整備、学習内容等の検討を行うプロジェクトチームの運営、中学生等へのPRを行います。                      ・府立高校における教育環境の向上と教育内容の充実と併せて、効果的・効率的に教育活動を行う観点から適正な規模を維持しながら適正な配置を進めます。</p>	<p>◇活動指標（アウトプット）                      * 平成30年度開校・改編                      インパワメントスクールの開校 2校                      総合学科への改編 2校                      普通科専門コース設置校への改編 3校</p> <p>* 平成25年度に策定した再編整備計画に沿って、募集停止の対象校の決定・公表を行います。                      (参考) 募集停止                      平成28年度入学者募集時 2校                      平成29年度入学者募集時 1校                      平成30年度入学者募集時 1校</p>	<p>○府立高校の再編整備の計画的な推進                      ・平成30年度に改編する高校については、教育内容の充実に向けて、カリキュラムを策定し、施設・設備の整備を行った。</p> <p>インパワメントスクール                      → 淀川清流高校、和泉総合高校                      総合学科                      → 大正白稜高校、成美高校                      普通科総合選択制から普通科専門コース設置校へ改編                      → 北摂つばさ高校、緑風冠高校、金剛高校</p> <p>・広報については、インパワメントスクールなどの改編校や改編予定校を紹介するリーフレット等を作成し、府内公立中学校3年生全員に配付した。また、府内各地域で開催される中学校長や進路担当教員等の会合で再編整備について情報提供を行った。</p>

<p>* 能勢高等学校再編整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・能勢高校の豊中高校能勢分校への改編に向け、教育内容の充実、進学・就職など生徒の多様な進路の実現を図るための取組み等の検討を行います。</li> </ul>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 本校・分校間の効果的な連携を図るために、ネット教室の実証実験等を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月の教育委員会会議で、平成31年度から改編する学校（案）を公表し、11月の教育委員会会議で決定した。</li> <li>（機能統合をする学校）             <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 柏原東高校（機能統合先：八尾翠翔高校）</li> <li>→ 長野北高校（機能統合先：長野高校）</li> </ul> </li> <li>（改編する学校）             <ul style="list-style-type: none"> <li>普通科総合選択制から総合学科へ改編</li> <li>→ 枚方なぎさ高校</li> </ul> </li> <li>○能勢高等学校再編整備事業</li> <li>・「ネット教室の実証実験」</li> <li>遠隔授業の実施やSGH活動における連携など、両校の教育活動を効果的に行うことができるかを検証する実証実験を実施した。</li> </ul>
---	--	---

【部局長コメント（テーマ2総評）】

<p>&lt;取組状況の点検&gt;</p>	<p>&lt;今後の取組みの方向性&gt;</p>	<p>自己評価</p> <p>ほぼ達成</p>
<p>■ 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実</p> <p>当初の目標を一部達成することができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語コミュニケーション能力の育成については、SET 配置校における TOEFL iBT オンライン受験におけるスコアが一部を除き当初の目標を大きく上回る等の成果がありました。また、Advanced Class を受講した生徒の講習開始前と終了時のテスト結果を比較したところ、平均点が大幅に上がり、英検 2 級レベル程度の英語力を有する生徒の割合が 60%を越えるなど、大きな成果を上げました。</li> <li>・理数教育の充実については、サイエンススクールネットワーク連携校を中心に、府内の課題探究活動を行っている学校から、サイエンスデイへの参加校が年々増加しています。</li> <li>・グローバルリーダーズハイスクールの充実については、グローバルリーダーズハイスクール評価審議会において、平成 26 年度から平成 28 年度の取組みに対する総合評価は 5 段階評価のうちすべて上位 3 区分でした。</li> </ul>	<p>■ 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省調査によって明らかになった、英語 4 技能のうちの最も課題となる「話す」能力の育成をめざし、府立高校全体で「スピーキング」に重点を置いた取組を進めます。</li> <li>・引き続き、参加校の増加など、理数教育の充実に取り組みます。</li> <li>・グローバルリーダーズハイスクールに指定した 10 校の大学進学実績、各種コンクールでの入賞や課題研究・探究活動の充実、英語運用能力の向上において、成果をあげるよう取り組みます。</li> </ul>	

- ・工科高校・農業高校を対象に企業や大学等との連携により、技術・技能研修の推進を図ることができました。
- ・生徒・保護者対象の進路説明会などにおいて、平成 28 年度に工科高校魅力化推進 P T が作成した工科高校 P R 映像を掲載したホームページなどを活用し、工科高校の魅力を広く発信できましたが、「平成 30 年度選抜において、全ての府立工科高校 9 校で募集人員の充足をめざす」という当初の目標は達成できませんでした。工科高校の魅力発信を継続していく必要があります。
- ・平成 29 年度までに開校したエンパワメントスクール 6 校については、授業力向上を目的とした定期的な連絡会や研修会に加え、キャリア教育コーディネーターやスクールソーシャルワーカーの効果的な活用を図るための連絡会を実施しました。また、平成 30 年度に開校する 2 校について、担当教員を対象とした研修会等の実施や、無線 LAN 環境や実習室等の環境整備を進めました。
- ・府立富田林中学校・高等学校については、中学校初期段階からの英語のリスニング力強化のための取組みや、地域をフィールドとした探究学習・成果発表を行いました。

#### ■ 生徒の自立を支える教育の充実

当初の目標をほぼ達成することができました。

- ・キャリア教育の推進については、当初の予定どおり取組みを進めました。

- ・中退防止の推進については、中退防止フォーラムの実施により、先進的な事例の共有を行いました。

#### ■ 学習環境の整備

- ・ICT 環境の充実については、当初の目標を達成することができました。

#### ■ 公平でわかりやすい入学者選抜の実施

- ・入学者選抜制度の改善と調査書の絶対評価導入への対応については、平成 30 年度入学者選抜において、当初の目標を達成することができました。

- ・生徒・保護者対象の進路説明会などにおいて、工科高校 PR 映像を掲載したホームページや工科高校 PR 用 DVDなどを活用し、引き続き工科高校の魅力を発信してまいります。

- ・エンパワメントスクールでは、進路決定率、学校生活満足度の向上を図ります。また、欠席者数、遅刻者数の減少をめざします。

#### ■ 生徒の自立を支える教育の充実

- ・キャリア教育支援体制整備事業により構築した校内体制及び就職支援に関するノウハウを有効活用していきます。また、フォローアップ事業においては、就職支援コーディネーター、スクールソーシャルワーカーとの連携を図り、生徒の自立を支える教育の充実を推進します。

- ・中退防止フォーラムの実施により、各校の実践事例の共有をより推進するとともに、中退者の多い学校 20 校を重点に支援し、中退防止対策を着実に進めていきます。

#### ■ 公平でわかりやすい入学者選抜の実施

- ・平成 31 年度入学者選抜に向けて、市町村教育委員会、中学校等及び高等学校に制度の更なる周知を図り、選抜事務作業の円滑な実施に努めていきます。



**■ 就学機会の確保と学校を選択できる環境づくり**

当初の目標を達成することができました。

- ・奨学給付金制度の実施については、当初の予定どおりに取り組みました。

**■ 活力ある学校づくりをめざした府立高校の再編整備**

当初の目標を達成することができました。

- ・平成 30 年度に開校するエンパワメントスクール 2 校、総合学科に改編する学校 2 校、
- ・普通科専門コース設置校に改編する学校 3 校の開校・改編の準備を行いました。
- ・平成 31 年度に機能統合・改編する学校を決定し、その実施に向けた検討や準備を進めました。

**■ 就学機会の確保と学校を選択できる環境づくり**

- ・国の平成 30 年度予算で、奨学のための給付金のさらなる拡充が図られていることから、府としても制度の周知と充実に努めていきます。

**■ 活力ある学校づくりをめざした府立高校の再編整備**

- ・平成 31 年度の改編校（総合学科への改編 1 校、機能統合による再編 2 校）の改編準備を行います。
- ・再編整備計画に沿って、募集停止の対象校の検討を行います。また、平成 31 年度以降の再編整備計画を策定します。